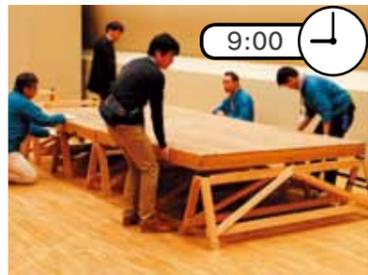




演奏会当日開演までの流れ



9:00 舞台設営 (仕込み)

管・打楽器が乗るひな壇を組み上げます。実はひな壇の中は空洞。重い楽器や大勢の人が乗ると、「ミシミシ」と音がして少し怖いそうです。その後、音の反射板の調整や、椅子・譜面台などを設置して全体の配置を整えます。

ゲネプロ (本番前練習)

本番前に必ず行う通し練習です。実は演奏者が全員そろうのはこれが初めてという楽団も少なくありません。また、本番会場で音を出すのは当日初めてという場合がほとんど。限られた時間の中で全体の音のバランスなどをしっかりチェックします。



13:00 開場前 (受け付け設営)

入口で来場者に配るパンフレットなどを整えます。この日用意した部数は800部。午後1時30分の開場まで時間があります。みんなで協力し、真剣に取り組みました。



開演直前

上座と下座に分かれて演奏者が舞台袖で待機しています。緊張している人もいましたが、ほとんどの人はリラックスしていました。楽器のチェックも入念に行います。



前橋交響楽団とは—

昭和61年に有志によって市内で設立された市民楽団。現在団員数は60人で、古典派やロマン派などのクラシック音楽をメインに演奏しています。年1回の定期演奏会やファミリーコンサートを行うほか、各イベントにも積極的に参加しています。



1 本番ではブラームスの交響曲第3番へ長調や、リストの交響詩「レ・プレリュード」などを演奏 2 美しくこまやかに奏でるハーブ 3 木管楽器が曲に彩りを添える 4 甘く、重厚な響きを持つピオラ 5 演奏をまとめ、オーケストラの魅力を引き出す指揮者

chapter 4

前橋交響楽団定期演奏会密着取材 演奏会の裏側大公開

華やかな演奏を奏でるオーケストラ。この舞台裏って知りたいたいと思いませんか？そこで、市内で活動する市民楽団「前橋交響楽団」に同行し、10月20日に市民文化会館で行われた定期演奏会の様子を取材しました。普段見ることのできない演奏会ができるまでの舞台裏の動きや、演奏者たちの素顔を紹介します。

楽団員に聞きました！

Q 演奏会はいかがでしたか？

石原知佳さん(バイオリン)
練習でなかなか演奏できなかったところが本番でできました！達成感があって、楽しかったです。



小林達矢さん(バイオリン)

緊張せず、楽しんで演奏できました。本番前の練習で頑張りすぎて、良い感じで力が抜けましたね。



新井麻里奈さん(ホルン)

私はソロで音が出てくれるか不安で、



すごく緊張してました。本番ではしっかり音が出せたので、ホッとしています。

Q 演奏会でのハプニングや豆知識を教えてください！

関川真衣さん(トロンボーン)

照明の照り返しで楽譜が見えなくて、音を間違えたことがあります。でも、そういうときこそ堂々として、演奏を止めないようにしますね。



石原知佳さん バイオリンやピオラは演奏の途中で弦が切れると、後ろの席の人と楽器を交換するんです。ほとんど後ろの人と交換していったら、一番後ろの人が弦の切れた楽器を持って一旦退場します。おもしろいですよね。

Q 音楽の面白さとは何ですか？

小林達矢さん 世代や個性を問わず交流が図れるところがいいですね。幅広い年代、いろいろな個性を持った人たちが一つのものをつくり上げるということは、実はすごいことだと思います。特に市民楽団はオープンな場所なので、いろいろな可能性があって楽しいですよ。
ありがとございました。